

## 平成28年度 第1回小野市国民健康保険運営協議会

1 日 時 平成28年7月27日(水) 13時30分～15時17分

2 場 所 小野市役所 第2庁舎第1会議室

### 3 出席者

被保険者代表 ・東一 文代 ・前田 弘子 ・吉田 肇(欠席)  
保険医代表 ・西山 敬吾 ・岡村 龍一郎 ・藤原 市朗  
公益代表 ・横山 種機 ・高坂 純子 ・松本 公平  
被用者保険ワーカー ・竹本 淳 (全国健康保険協会兵庫支部)  
事務局 ・松井部長 ・内藤課長 ・大橋課長補佐 ・岡田主査

### 4 会議内容

(1) 開会

(2) 保険者あいさつ

(3) 委員・事務局自己紹介

(4) 会議録署名委員の指名

(5) 協議事項

①前年度決算報告

②国民健康保険事業の状況について

③その他

(6) 閉会

#### ●協議事項(1) 前年度の決算報告

(事務局より報告後、質疑応答)

【委員】 この基金積立金の5,000万円ですか、これは結局どこに積み立てて、どこにストックされているんですか。

【事務局】 小野市の国民健康保険事業基金のほうに積み立てています。

【委員】 基金に積み立てできない年度もあるわけですか。

【事務局】 はい。

【委員】 ことしは基金に積み立てできるほど健全でかつ、繰り越しがこれだけ出たということですね。

【事務局】 そうです。

【委員】 今までは、毎年基金を潰していったと。

【事務局】 保険料を抑えるために、昔からあった基金を全部崩してやってきましたが、基金がなくなったので、平成23年ぐらいから保険税を改定してきております。

【委員】 保険税に滞納繰越分というのが年々大きくなっていると思うんですけども、小野市ですと、何%とか、何世帯とかというのは。

【事務局】 11ページに収納率について上げさせていただいております。現年の収納率のほうが上がっておりますので、滞納繰越しに回る分が少なくなっている状況でございます。

#### ●協議事項（2）国民健康保険事業の状況について

（事務局より報告後、質疑応答）

【委員】 特定健診が始まって、もう2回目の計画期間に入りましたよね。初めの5年間のときも、受診率が低いと後期高齢者支援金の加算、減算の話が出ていて、みんなそれで頑張ろうということだったんだけど、何も罰則もプラスマイナスもなかったんですね。

【事務局】 受診率がほぼゼロ%みたいなところに対しては、多少あったんですが。

【委員】 今回の国のインセンティブの件は、本当に実現するんですかね。今までの流れからすると、話として出ているだけのような気もするんですが。

【委員】 特定健診に対して、インセンティブつけるといいますが、この国民健康保険の趣旨は、やっぱり悲しみの分かち合いというか、保険でしょ。保険の財源を使って、予防給付や病気にならないようにしたほうが財政が安定化するという前提に立って、健診をやっているんですね。健診したほうが病気が少なくなると。だけど、

特定健診をやれば医療費が抑制されるという結果は出てないんですよ。

【委員】 加東福祉事務所、北播磨なんかのデータを見ると、特定健診の受診率が高い地域は、がん検診の受診率も高いです。だからやっぱりセットで必要だと。特定健診は、それを基盤としてがん検診の受診率が上がれば、これは住民にとって利益になるんじゃないかということで、協力を惜みませんし、さっき言われた医師会のほうの個別健診は、もう2年も3年も前からしていますから、患者さんさえ来られたら、みんな積極的に協力しています。

【委員】 医師会は個別健診だけじゃなくて、臨床で得たデータを調書に書けば健診率に貢献できるという簡易受診票も協力しています。

【委員】 ふだん高血圧とか、糖尿病とかで診ている人は、例えば2カ月に1回、3カ月に1回採血してますでしょ。簡易受診票というのは、各医療機関がふだん診ている結果を書いて行政に送れば、患者さんからはお金をもらいません。でも、受診率の向上にはなるということで、小野市、加東市では始めているんです。ただ、ことしは受診料がゼロになったからどっちをしても患者さんの負担はゼロ。今月は保険診療をやめて特定健診にすれば患者さんは負担なしで同じような内容で採血ができるわけですね。だからそこまで浸透しているかどうかわかりませんが、確かにふえてはいます。

【委員】 この特定健診なんですけれども、私はパートでも働いていて、会社で健康診断がありますよね。全く同じことをするので、特定健診が無料でも受けようと思わないんです。主人も病気で病院にかかっている、血液検査やいろいろしているので、無料と言われても行く気がないので、この人数に入らないんですよ。

【委員】 パートの場合は社会保険じゃないので国民健康保険だけでも、一緒にやってくれるわけやね。

【委員】 職場がしてくれる。だから常勤の人たちも非正規雇用の人も、バスが来て全員しています。

【議長】 小野市がこれだけ低いというのは何か原因があるんですか。

【事務局】 1つは、去年まで自己負担があったということが影響していたかなと思っています。

【委員】 ほかの数字の高いところは自己負担がないんですか。

【事務局】 北播磨は比較的、自己負担を取っていたんですが、ほかの地域はほとんど自己負担がないところが多いです。

【委員】 特定健診の話ですけど、受診率が低いと言われていて、今年から無料ということなので、自治会の初総会するときなどに、無料になっているから、受けてくださいよということで、皆さんに伝えるようにするといいと思います。

【委員】 それはありがたいことで、個人の幸せのためには、受けたほうがよろしい。自分が病気かわからない方もおるかもしれんからね。区長さんたちが、皆さんに、健診行ってくださいというのは、非常にありがたいことやと思います。

【委員】 ことしは無料だということを、健康課もアピールしているし、保健衛生推進協議会もどうやったら受診率がふえるかと、毎年いつも話が出るんです。ただ、やっぱり末端で、区長さんなり隣近所が、一緒に行こうとか、そういう誘い合いが一番大事というのは、加東市のほうからも聞いています。

【委員】 町の取り組みで、今の話を聞いて、大変うれしいことだと思うんですけど、市のほうで、町ごとに、国保で特定健診を受けたというデータは出てないんですか。

【事務局】 先ほど委員が言われましたように、保健衛生推進協議会のほうで、そういうデータもお知らせしています。

【委員】 推進員さん以外に、目に触れることってできないのかな。

【委員】 あんまりやったらいけないのちがいますか。その町成績悪いとなって、まあ差別とは言わないけれど。

【委員】 区長さんぐらいまででもいいので、把握をしていただくというのも。

【事務局】 先ほど言われたように、あんまり競争というのも難しいところがあるん

ですが。

【委員】 以前勉強させていただいたんですけど、特定健診を受けている人と、全然受けてない人とのデータをとってという資料がありましたよね。

【委員】 特定健診をしてる人としてない人とを比較して、してない人の病気が多いのは、もうすでに医者にかかっているから。

【事務局】 健康課がプレゼンしたんですね。

【委員】 健康課で、勉強させていただいたんですけど。

【事務局】 健診を受けられたら、数値的によくなっているデータもあるんですが。

【委員】 それでもちょっと医療費が少なくなるという。

【委員】 健診してなくても、その人たちに指導したら、指導したほうがよくなるのは決まっています。

【事務局】 行ってない人のデータではなくて、ずっと毎年受けられている方のデータと、何年か受けてないと言われる方のということですね。

【委員】 何年か受けてない人は、そのときに病気が見つかりやすいです。

【事務局】 健診を受ければ、それだけ早く病気が見つかりますよね。

【委員】 一人一人の幸せのためには、健診を受けたらいいと思いますけども、集団で受ける競争をしたり、それで医療費抑制になるというのは、それは違います。

【事務局】 今受診率がこれだけ低い状況の中で、例えば仮定で100%受けたとして医療費がどうなるかという部分と、二十数%しか受けてないような状態との比較というのは、一概にちょっと難しいかなという思いはあるんですけどね。

【委員】 まあ言えば、病院にかかりつけで行っておられる方についてのデータは、市に送ってもらう。

【議長】 今の話では、会社で受けている方もありますので、私のところも事業所を巡回して健診事業をやっていますので、そこをもうちょっと掘り下げて、国保の方は報告してもらえますかとかいうふうにお願いしたら、それはいくらかふえるんじゃない

いでしょうか。

【委員】 それはいいアイデアです。

【事務局】 未受診の方がどうか状況というのを、1回調査しないといけない。現場でも、できるだけさせてもらっているんですが。なぜ受けないのか。

【議長】 国保の方の受診者の年代別の表ってあるんですか。

【事務局】 今回お出ししていませんが、統計的にはあります。

【委員】 地域性とかがあるから一概には順番をつけるのは難しいのかな。

【委員】 今、会長が言われたように、国保の健診を受けなかった人がなぜかということ一度調べて、会社で健診を受けている人だったら、その事業所に対して、データをもらえませんかとやったらどうですか。

【事務局】 それを行っている自治体もあります。

【委員】 先にしているところがあるんですね。それをやったらどうですか。

【委員】 私が勤めているのは小野市じゃないので、加東市なので。

【委員】 よその市で働いている人まで手を伸ばすというと大変でしょう。

【委員】 アンケートぐらいはできる。

【委員】 アンケートが来たら、私は何々市の職場で受診していると書けます。

【事務局】 平成25年にそういうアンケートをとっています。

【委員】 それ、どうでしたか。

【事務局】 回答自体が少ない状況です。中でも、職場で受けているからという回答は、多くなかったです。

【委員】 私の職場には小野市の人結構ありますよ。

【委員】 費用がかからずに受診率がふえるでしょう、何%か。

【事務局】 それをやっている自治体については、企業に対して回答があったら1件いくらという形で支払っています。

【委員】 ことし1年見て、どこまで上がるか。でもやっぱり50%は行かないから、

受けない半分の人が何で受けないかはチェックしておく必要があると思います。

【委員】 一般の方は、個別健診といって病院に行くとお金がかかるんじゃないかというのがあるかもしれない。

【委員】 それはもう行政で広報しないとしようがない。

【委員】 そこは行政がちゃんとアピールされたらいいわけです。

【委員】 新聞の記事を見たんですけれども、失業とか生活困窮の場合には、医療費の窓口負担の減免制度があるんですけれども、小野市でその制度を利用した方は、1名と記事に上がっているんですが、国民健康保険料は困窮世帯などは減免される。その方が本当にそれだけなのか、そういった制度を利用されず、実際のところ保険証がなくて現金で払ったりとか、または病院にかからないようにしているといったような、その辺は小野市はどうなのかなということ、ちょっとお伺いしたかったんです。

【事務局】 その1名の方は、ちゃんと保険証を持っておられるんですけど、経済的な理由で、診察を受けたときに、窓口の3割の負担が難しいという。

【委員】 払えない。

【事務局】 そういう人に対して、その減免制度というのがあります。

【事務局】 減免制度自体は、最大3カ月で、一時的に負担金が払えない人を対象とした制度となっています。

#### ●協議事項（3）その他

【事務局】 次回の日程ですが、10月の下旬をめどに開催したいと思っております。まだ確定ではないんですけれども、9月以降ぐらいに日程調整させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

#### ●閉会

【議長】 それでは、本当に長時間にわたり、いろいろ御審議いただきありがとうございます。ありがとうございました。

閉会 15時17分

